

(5) 東 海



東海地域では、景気は力強く回復している。

- ・ 鉱工業生産は堅調に増加している。
- ・ 個人消費は緩やかに回復している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

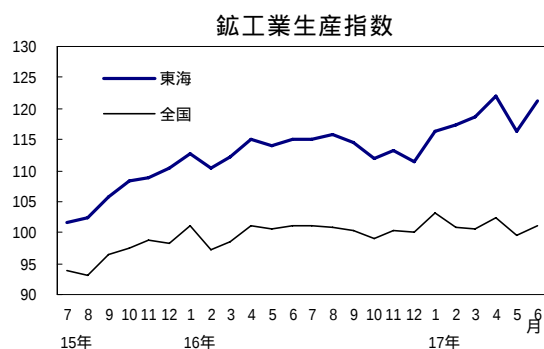
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 17 年 5 月）	今回（平成 17 年 8 月）	
景況判断	回復している	力強く回復している	↑
鉱工業生産	増加	堅調に増加	↑
個人消費	持ち直しの動きがみられる	緩やかに回復している	↑

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は堅調に増加している。

輸送機械は、完成車の国内向けが堅調に推移するとともに、海外向けが北米向けなどを中心として引き続き好調であることから増加している。なお、自動車部品も増加している。一般機械は、金属工作機械が国内外の一般機械向け、自動車関連向けが拡大傾向で推移したことなどから、増加している。電気機械は、制御機器が自動車関連、半導体関連向けが好調であるとともに、電動機が自動車関連向けを中心に好調だったことから増加している。窯業・土石は、ファインセラミックスが自動車向けを中心に引き続き増加したものの、陶磁器がタイル・飲食器を中心に低調に推移したことなどからおおむね横ばいとなっている。化学は、自動車関連向けが高水準で推移したものの、四半期でみると減少に転じている。電子部品・デバイス、半導体素子・集積回路が携帯音楽機器用メモリカード向け需要が好調なことなどから増加している。



(備考) 1. 12年=100、季節調整値。
2. 平成17年6月の東海は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1～3 月期	4～6 月期	4～6 月期	4～6 月期
輸送機械	33.9	7.1	1.5	3.2	7.4
一般機械	11.3	3.3	4.0	2.1	0.8
電気機械	7.3	0.7	5.2	11.5	▲12.7
窯業・土石	6.1	3.0	▲0.7	2.9	▲1.5
化学	5.4	6.9	▲5.3	1.3	3.9
鉱工業	100.0	4.7	2.0	2.5	3.5

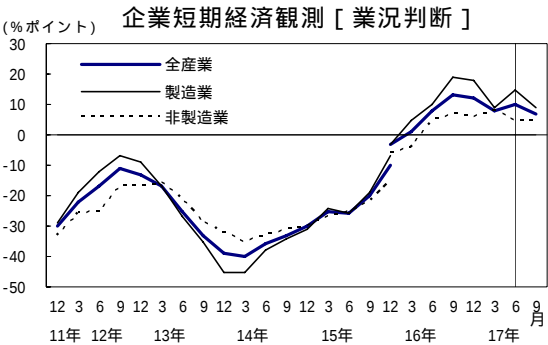
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 4～6月期は速報値。

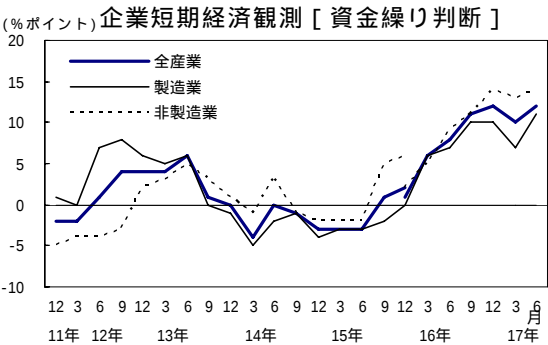
3. 生産指数は東海。出荷、在庫指数は中部。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ拡大している。

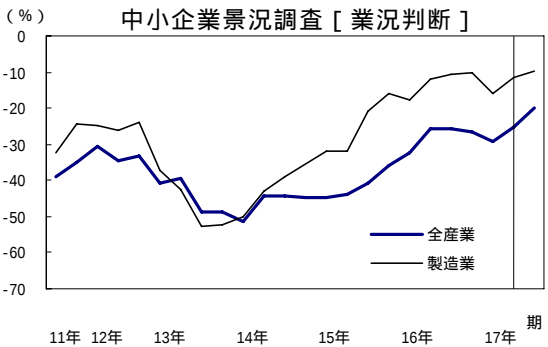
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。17年9月は予測。
15年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。17年 期は見通し。
中部地区。

景気ウォッチャー調査 (7 月) [企業動向関連 (現状)]

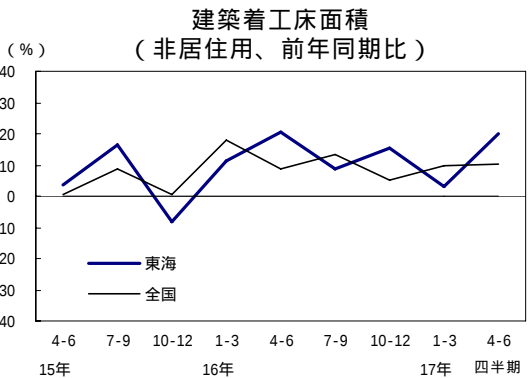
「 4 月、5 月に比較すると受注金額が 30%ほど減少しているが、まだ生産能力以上の受注が入ってきている。また普段全く取引のない企業からも引き合いが入ってくる (一般機械器具製造業) 」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 17 年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (6 月調査)]

	(前年度比、 %)	
	16 年度実績	17 年度計画
全 産 業	9.6 [12.2]	13.2 [0.7]
製 造 業	22.6 [23.7]	20.1 [1.1]
非 製 造 業	▲2.8 [1.2]	4.8 [0.2]

(備考)[]は前回 (3 月) 調査結果。



2. 需要の動向

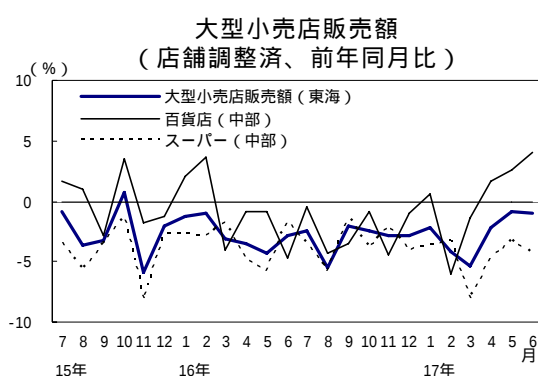
(1) 個人消費は緩やかに回復している。

大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、4月は、増床効果などから、婦人・子供服・洋品や身の回り品が前年を上回るなど、衣料品が3か月ぶりに前年を上回り、愛知万博効果もみられたことから、全体でも3か月ぶりに前年を上回った。5月は、競合激化から衣料品が前年を下回ったものの、愛知万博効果から関連商品土産や弁当需要がおう盛だったことなどから、全体でも前年を上回った。6月は、クールビズ効果などから紳士服・洋品が5か月ぶりに前年を上回るとともに、引き続き、増床効果、愛知万博効果がみられたことから、全体でも3か月連続で前年を上回った。なお、名古屋市内主要5百貨店の7月の売上高は、前年同月比で7.9%増となっている。スーパーは、競合が激化するなか、期間を通じて衣料品・飲食料品ともに前年を下回り、全体でも期間を通じて前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

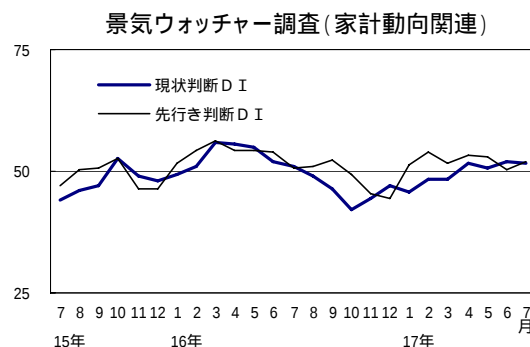
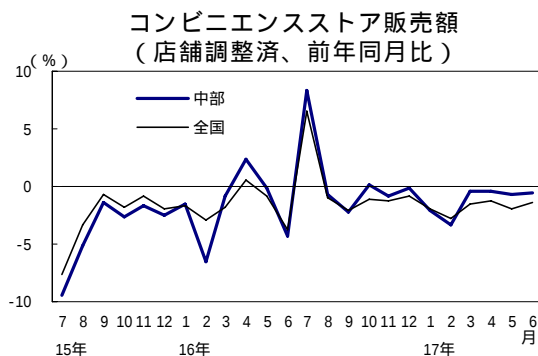
「客は相変わらずプレー代は少しでも安くしたい様子であるが、食事代やクラブ代にはお金を使うなど、今までの動きと違う行動も目につく(ゴルフ場)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



(前年同月比、%)

	16年7-9月	10-12月	17年1-3月	4-6月
大型小売店	▲3.3	▲2.7	▲3.8	▲1.3
百貨店	▲2.4	▲2.0	▲2.0	2.8
スーパー	▲3.7	▲3.4	▲4.9	▲4.0
コンビニ	1.7	▲0.3	▲1.9	▲0.5
景気ウォッチャー	48.8	44.5	47.5	51.4

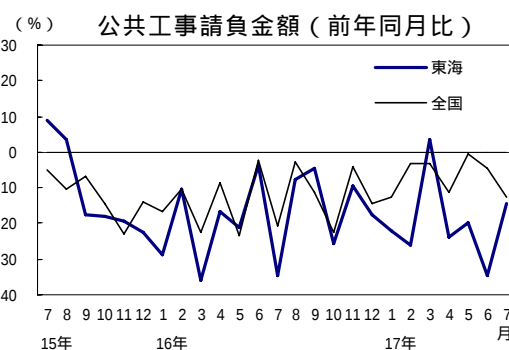
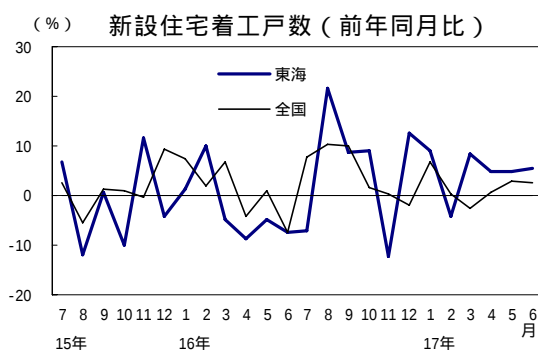
(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。
百貨店、スーパー、コンビニは中部地区。
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は増加している。

持家が前年を下回ったものの、貸家、分譲が上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は17年度累計でみると前年度を下回っている。

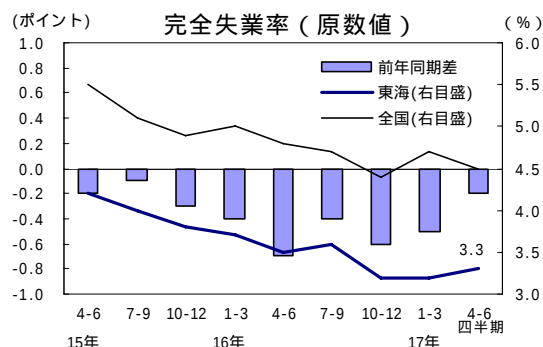
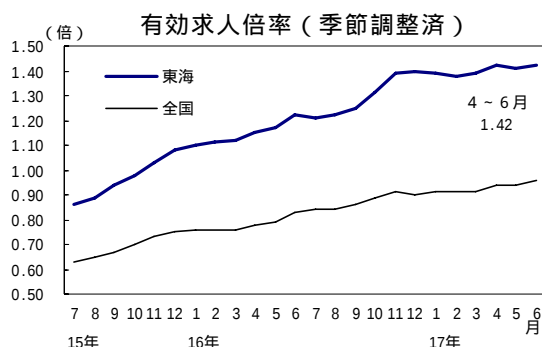


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査（7月）[雇用関連（現状）]

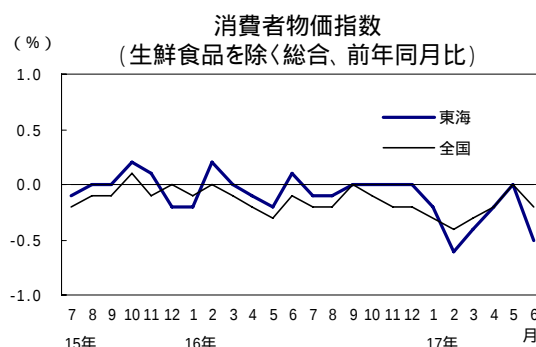
「新規求人数は前年同月比で若干増加しているものの、一時期の勢いはなくなっている。正規雇用にも依然慎重な様子である（職業安定所）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。

(3) 消費者物価指数は下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	16年7-9月	10-12月	17年1-3月	4-6月	17年7月
倒産件数	290	325	333	344	92
(前年比)	▲17.1	▲3.3	▲0.9	21.6	▲5.2
負債総額	1,069	3,141	2,480	1,656	286
(前年比)	▲33.4	▲23.9	77.1	88.4	▲9.8



○ 景気ウォッチャー調査（7月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・新型車の発表がないためか、受注件数、売上とも大きく前年割れしており、盛り上がりには欠けている。ただし新車に関する問い合わせは多く、潜在需要は強い（乗用車販売店）

<先行き>

・愛知万博に従事している人材を求めて、万博終了前後の9～10月には求人採用活動が活発化し、やや上向く（新聞社[求人広告]）。

